

8 灌水(散水)

コンテナ苗の生産に当っては、夏場も含め、水の安定確保が必要不可欠となります。その上で、スプリンクラー等の散水施設があれば、これを使用し(図-25)、そうでなければ手灌水を行います。

コンテナ育苗を実施する場合、ハウス内では、トレイ表面の培地が乾燥しやすくなるため、種子の乾燥(発芽率低下)を防ぐ意味からも、ミスト灌水により、日に1~2回散水します。ミスト散水設備がない場合、目の細かいシャワー散水を実施します。

屋外(露地)では、できるだけ1回の灌水で、トレイの培地が飽和状態になるまでしっかりと散水し、その後、乾いたら再び散水するように心掛けましょう。1回の灌水が少ないと、場合によっては、キャビティ内の根鉢下部が長期間乾燥状態となり、当該部分の根が枯死しますので注意してください。

トレイの培地が灌水等により飽和状態になると、JFA150の場合、最大6.5kg程度に達します。一方、最もトレイの培地が乾いた状態では、3.5~4.0kgまで軽くなり(図-26)、これを下回ると、苗木が萎凋し始めます。このことを踏まえ、定期的にトレイの重量を計測することにより、灌水管理を徹底することをお勧めします。

今後の課題としては、一部の野菜において既に成長促進効果が認められている、ナノバブル*装置(日本農業新聞 2020)について、コンテナ苗に同様の効果(地上部、地下部の重量増加)があるか、否かについて検証を進めていく必要があります(図-27)。



図-25 屋外での灌水方法

(左側：スプリンクラー方式 右側：チューブ方式)

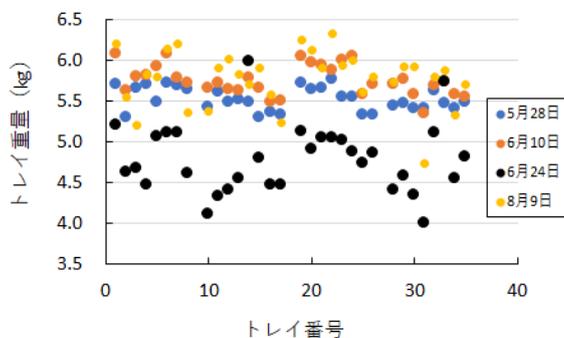


図-26 スギ・ヒノキトレイ重量の一例

注. 岡山県森林研究所による調査(2020)



図-27 ナノバブル装置の設置